

増設メモリ

増設メモリ

1.概要

型名	製品名
N8502-60	64MB 増設メモリボード
N8502-61	128MB 増設メモリボード
N8502-77	256MB 増設メモリボード
N8502-95	64MB 増設メモリボード
N8502-96	128MB 増設メモリボード
N8502-97	256MB 増設メモリボード
N8502-98	512MB 増設メモリボード
N8502-105	1GB 増設メモリボード
N8502-68	32MB 増設メモリボード
N8502-69	64MB 増設メモリボード
N8502-70	128MB 増設メモリボード
N8502-71	256MB 増設メモリボード

2.機能仕様

	N8502-60	N8502-61	N8502-77
容量	64MB	128MB	256MB
仕様	SDRAM-DIMM		
動作クロック	100MHz		
駆動電圧	3.3V		
バッファ	無し		
増設単位	1 枚		
サポート機種	110Ec,110Lb		

	N8502-95	N8502-96	N8502-97	N8502-98	N8502-105
容量	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB
仕様	SDRAM-DIMM				
動作クロック	133MHz				
駆動電圧	3.3V				
バッファ	有り				
増設単位	1 枚				
サポート機種	120Ld,120Mc,120Rb-2				

	N8502-68	N8502-69	N8502-70	N8502-71
容量	32MB	64MB	128MB	256MB
仕様	EDO-DIMM			
アクセススピード	50nS			
駆動電圧	3.3V			
バッファ	有り			
増設単位	4 枚			
サポート機種	140Ma,140Ha,180Ha			

■ EDO DRAM(Extended Data Out DRAM)

データを出力するタイミングを改良する事で、読み出し時の連続転送速度を向上させたDRAM。データ出力端子の手前にデータ保持回路を追加して、DRAM内部のメモリセルからの読み出しと外部バスからの読み出しをオーバーラップさせる事で、サイクルタイムを短縮する。

■ SDRAM(Synchronous DRAM)

従来のDRAMと比べて内部は基本的に同じであるが、外部バスインターフェイスが一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAM。Pentium,Pentium IIなどのCPUも、その外部バスはクロックに同期して動くため、CPUとSDRAMのクロックを共通にすればアクセス時のロスを少なくできる。SDRAMで高速化できるのは、1クロック毎にデータを転送するバーストモードである。従来のDRAMを利用する場合、Pentium,Pentium IIではバーストモード時にウェイトを挿入しなければならない事が多いが、シンクロナスDRAMを用いればノーウェイトでCPUのバーストモードに追従できる。ただし、バーストモードの最初のアクセスは速くならない。

3.注意事項

- ・ Express5800 シリーズ用に販売されている他社製メモリは動作保証の範囲外となるため、Express5800 純正品のメモリを使用すること。